

チーバくんグローバルパートナーズ 意見交換会

日 程：2024年12月18日（水曜日）

形 式：Zoom ミーティング

出席者：チーバくんグローバルパートナーズ4名、千葉県国際交流センター職員3名、
千葉県職員6名

意見交換会 次第

1. 課長挨拶
2. 自己紹介
3. 意見交換会

「働く外国人の方へのコミュニケーションに関する支援等について」

- (1) 外国人が働くうえで、コミュニケーションの面でどんなサポートや支援があれば良いと思いますか。
- (2) 外国人が定着しやすい、働きやすい環境を作るために事業主や企業に知ってほしいことは何ですか。

「外国人向け生活案内チラシについて」

- (1) 引っ越してきた外国人の方にはどのような情報が必要だと思いますか。
- (2) どのようなチラシなら外国人の方に生活に必要な情報が伝わるとと思いますか。

意見交換会 意見概要

1 「働く外国人の方へのコミュニケーションに関する支援等について」

- (1) 外国人が働くうえで、コミュニケーションの面でどんなサポートや支援があれば良いと思うか。
 - ・ある自治体では、外国人労働者に対し、労働者目線で日本語教育を実施していて面白い取り組みだと思った。日本語の教材資料などが労働者目線での作りになっており、職場で困らないような日本語教育に取り組んでいる。
 - ・コミュニケーションの支援も大切だが、外国人が職場の文化を身に付けること、職場になじむことが難しいと感じる。なじめないと、せっかく良い会社に入ってもすぐにやめてしまう。
 - ・職場の日本語と大学で学んだ日本語は全く違う。大学ではいろいろと教えてくれるが、職場ではあまり細かく教えてくれない。
 - ・日本人と外国人ではコミュニケーションの方法が違う。日本人は明確に言わず、あいまいな

表現が多い。また、外国人は敬語を使うことが難しい。

国際課：日本人のあいまいな表現が分かりづらいといった話について、具体的に会社などで困った事例はあるか。

⇒「これ」「あれ」「例のあれやっておいてください」など。あいまいな指示を出されても、外国人はとりあえず「分かりました」と返事してしまうので分からないままである。はっきりと指示をしないと、外国人はなかなか理解できない。また、期限を示す際の「可能な限り」という表現も、いつか分からないので、時間をはっきり表現する必要がある。

- ・外国人労働者には日本語教育、日本人労働者にはやさしい日本語を使うよう教えるなど、外国人と日本人双方に指導していくことが必要。さらに、日本語を教える時は、「この日本語を学ぶとこう役立ちますよ」といったように、教える日本語が生活や仕事でどのように本人に役立つかを明確に伝えることが重要。また、それに対して目標を設定して、達成感が得られるような企業のサポートが必要。自分はあまり例を聞いたことがないが、例えば、N4、N5をとったらお給料が上がる、といったところかなと思った。
- ・日本語ができる人を雇えば良いので、企業が従業員に対して日本語教育を行うことに疑問を持っている。N3、N4をとると給料が上がる、といった企業の話はまだ聞いたことがない。
- ・家族滞在で来日した人について、日本語が全くできなくても仕事はきちんとあるケースが多い。そのため、我々が地方で日本語教育をしようと思っても、相手の時間がない。コミュニケーションを取ろうと思っても、英語も日本語もできない家族滞在の人が増えてきているので、簡単な日本語を教えている場合ではない。
- ・来日してすぐ働き始める人は、雇用状況が問題ないかどうか確認ができないことが心配。
- ・技能実習生の場合はある程度日本語ができる状態で来ているが、家族滞在で来日する人は日本語が全くできない。そのような家族滞在の人が増えているが、その人の相談先がないというのが現状。行政に相談すべきところ、相談先がないためどうしてもボランティアに集中しているが、ボランティア団体による相談受付も限界がある。
- ・自分は大学生から日本社会に入ったが、そこまで日本語に苦労しなかった。大学4年間で日本語を勉強すれば上手に話せるようになるのが通常である。その一方で、サポートが

必要な外国人も存在する。

- ・最近では外国人の中で格差が出てきた。裕福な人もいれば、生活が大変な外国人もいる。生活が大変な外国人には、日本語を勉強してもらうことは難しいと思う。
- ・早急に対策が必要なのは家族滞在の人。日本はこんなに簡単に滞在できるようになったのか、と驚いている。外国人が増えるペースがとても速い。
- ・自国のコミュニティが、あまり良くないコミュニティである場合があるということを念頭に置いてほしい。特に若い人に対しては、変なコミュニティに入らないように工夫をしたいと思っている。積極的に我々のグループや日本人と仲良くしたいという人もいれば、自国のコミュニティで仲間と一緒にいた方が良いという人もいる。来日してから最初の数か月間で、自国のコミュニティに入るか、外部とも接触するかが決まると思う。

(2) 外国人が定着しやすい、働きやすい環境を作るために事業主や企業に知ってほしいことは何か。

- ・若い中間管理職や外国人労働者と接する従業員、指導する立場の従業員に対し、外国人労働者とのコミュニケーションの取り方のトレーニングを行う必要があるのではないかと考えており、一番重要だと思っている。特に技術系の職種だと、安全の問題もあるのでそういった研修が重要である。
- ・上層部や経営者はもちろんだが、直接外国人に接する従業員や一緒にいる上司に対してコミュニケーション方法や異文化理解に関する研修が必要だと思う。
- ・先ほど雇用労働課から紹介があったセミナーは、チーバくんグローバルパートナーズも参加できるものか？
⇒ (雇用労働課) 今年度は11月に実施済で、オンデマンド配信を予定している。HP から申し込みいただければ、視聴可能。
- ・外国人だけでなく中間管理職や現場で一緒に働く日本人も同じような研修を受ける必要があると思う。忙しいから、時間がないからといって外国人だけが研修を受けると、日本人は外国人の文化も全く知らないままで、何かトラブルがあると「やっぱり外国人は」と思われてしまうことがある。研修を通じて、「外国人はこう思ってるんだ」と改めて認識するのではないかとと思う。
- ・日本人と外国人の交流会を実施する時は、お互いの文化をクイズ形式やディスカッション形式で紹介しあうことで、お互いの文化を理解できると思う。研修会や勉強会という

堅いイメージなので、「交流会」のようにいうと魅力的だと思う。

- ・日本人が外国人について学べるような研修があると良い。
- ・出身国の人は日本語ができない人が多く、それが日本で働く際の大きなハードルになっている。「どのような準備が必要なのか」「どのレベルまで日本語が求められるのか」といった具体的な情報が不足している点が問題である。
- ・情報発信が行われても、日本語が分からないために内容が理解できず、参加したい人がほとんどいないのが現状。そのため、通訳のサポートや、英語で対応できるスタッフや窓口の設置があれば、より安心して働ける環境が整うと思う。

2 「外国人向け生活案内チラシについて」

(国際課で作成を予定している外国人向けのチラシについて概要を説明し、意見をもらった)

(1) 引っ越してきた外国人の方にはどのような情報が必要だと思うか。

- ・立場によって知りたい情報が異なると思う。労働者であるお父さんなら、職に関する内容、工場で働くのであればこういった免許が必要、その免許の取り方など。その家族であれば、病院、学校、幼稚園などの生活に必要な情報等。
- ・入管以外に真っ先に日本に来た外国人が関わるのは、市役所や町役場。住民課は必ず行く場所なので、そこで職員から積極的に説明した方が良いと思う。単に住民登録等の手続きだけでなく、「千葉県ではこういうものがあるので困ったら調べてください」といったように伝えられると良い。せっかく作ったものを、どうやって相手に伝えるかが重要。
- ・妊娠・子育て情報は必要だと思った。妊婦から出産についての相談を受けたが、自分も分からなかったので、そういった情報があると良い。また、保育園・幼稚園の情報もあると良い。
- ・どうやって伝えるかも重要。サポートシステムが構築されておらず、出身国の人は日本語ができる人が少ないので、断られたケースもあり凄く大変だった。
- ・パターンごとに情報をまとめると理解しやすいのではないかと思った。例えば、妊娠した場合はこの手続きが必要、家族滞在で来た人に対しては、お母さんはこういった手続きが必要、子供の就学にはこういったものが必要、技能実習生にはこういった手続きが必要で、具体的な内容は何ページを参照してください、といった形だとわかりやすく、情報収集しやすいのではないかと思う。
- ・防災情報が外国人に伝わっているかどうかについて、ずっと心配している。以前、日本語も

英語もできない外国人の親子がいた。台風の日に学校が休校になり、その連絡メールが来たが日本語だったので読めず、子供が登校してしまったことがあった。

- ・農業実習生について、もし災害が発生した場合、雇い主が実習生を助ける義務があると認識していないのではないか。地震の際にどこに避難すべきか、支援物資はどこでもらえるのかなど、実習生はほとんど知らないのではないかと常に不安を感じている。
- ・防災情報について、今後、全国的に統一された情報支援が出てくるのではないかと期待している。また、Safety tips（外国人旅行者向け災害時情報提供アプリ）の対応言語拡大や、それをどうやってみんなに利用してもらうかについても、今後進んでいくと思う。CLAIR（自治体国際化協会）や、CLAIR 経由で全国の国際交流協会とつながることができれば、そこから情報が提供されていくのではないかと考えている。

国際課：みなさんが情報を得るために使用しているアプリなどはあるか。

- ・NHK 防災を使用していた。
- ・ベトナム人の友人から、ベトナム人同士の連絡グループがあり、それをよく使っていると聞いた。
- ・千葉県国際交流センターで実施している外国人相談は多言語対応をしているが、まだまだ知っている人は少ないと思う。住んでいる市町村でも張り紙をしているが、どこまで効果があるかが分からない。とにかく1番早いのは役場の住民課。住民登録で必ず行く場所なので、確実に外国人に情報を伝えるなら住民課が一番良い場所だと思う。

(2) どのようなチラシなら外国人の方に生活に必要な情報が伝わると思うか。

- ・とにかく何のためのものかパッと見ではっきりわかるようにした方が良い。何百ページにまとめたとしても、10ページも読まない。分かりやすいもの、目的は何なのかわかると良い。
- ・多言語対応は必要だと思うが、それ以上に分かりやすいデザインが重要だと思う。
- ・情報をどこで配布・掲示するかも大切。例えば、出身国の人に対しては、モスクのような場所が適していると思う。

国際課：やさしい日本語で作ることを考えているが、英語併記をした方が良い、この言語があった方がよいなどの意見はあるか。

- ・絵やピクトグラムが良いと思う。
- ・やさしい日本語をすんなり受け入れてくれる人ばかりではない。やさしい日本語ばかり使うと嫌がる外国人もいる。日本語が上手な人は「これは私向けじゃないんだ」と読んでもらえない場合がある。普通の日本語でより簡単にわかりやすい内容にすると良いのではないか
- ・結論を書いて、絵などを使ってわかりやすくすると良い。特に官公庁の文章はわかりにくい部分もある。細かい説明は外国人にとって読むのが大変なので、すぐに結論が分かるような説明が良い。
- ・個別の言語対応が必要であると考えている。例えばシンハラ語やベトナム語と日本語を併記するなど。必ずしも英語が必要なわけではないと思う。至急で必要なのは、通訳ができる人があまりいないシンハラ語。ベトナム語は日本語教育を受けた人が通訳になってくれる場合がある。中国系の方は日本語で大体読むことができ、英語圏の方は英語に訳された資料が多いためそれで足りる。そのどちらにも当てはまらない外国人には、先ほど述べたような個別対応が必要なのではないかと考えている。

国際課：チラシに限らず、こういったものがあれば良いといった意見はあるか。

- ・Xは乗っ取られる可能性があるため、あまりお勧めできない。
- ・出身国の場合、Facebook や Instagram が良いと思う。国のコミュニティのグループなども良い。
- ・モスクに行くときより情報が伝わり、出身国の人との繋がりが得られるため、良く行っている。大学生や仕事をしている方など、色々な人が来る。モスクはインドネシア人、パキスタン人、アフガニスタン人、マレーシア人、ムスリムの方などが集まっている。たまにムスリム以外の人も一緒に食事をしたり、スポーツしたりするイベントがあり、日本人やベトナム人など、他の国の人も来る。こういったところで 交流ができれば情報共有ができる。
- ・以前、Facebook で出来ている外国人グループを見つけた。ベトナム人が入っているグループは70万人くらい登録者がいた。全国的なグループなので千葉県に限定することは難しいと思うが、その中にチーバくんグローバルパートナーズが参加し、情報を貼ってもらえば

県内在住の外国人は参加するのではないかと思います。ベトナム語、スペイン語、ポルトガル語、英語などのグループが見つかった。

3 その他

事業紹介（千葉県国際交流センター）

（千葉県国際交流センターから、実施事業について資料により説明。）

【第2回 チーバくんグローバルパートナーズ 意見交換会の様子】

